

第4回全国チョウ類保全シンポジウム

ー オオムラサキ ー

2009年12月13日(日)

10:00～16:30

国立女性教育会館(埼玉県嵐山町)

特別講演：海野和男氏(昆虫写真家)



オオムラサキ

Sasakia charonda

北海道から九州まで、全国各地に生息。真夏の空を力強く舞い、夕方にオスが縄張りを張ってメスを待つときには、近づいた小鳥を追いかけることさえあります。

クヌギなどの樹液に集まり、里山の雑木林のシンボルとして、広く名前を知られています。日本の国蝶として、切手のデザインになったこともあります。

梅雨が明けた夏空をすべるように舞い

豪快に羽音を立てて飛び立つ

日本の国蝶、オオムラサキ

カブトムシとともにクヌギの樹液に群がる姿は
雑木林で普通にみられた光景でした

なぜ、都会のまわりから姿を消していったのか
オオムラサキが暮らすために、何が必要なのか

オオムラサキをシンボルに

全国各地で進められる保全活動

チョウや雑木林、里山の自然を

ともに考えてみませんか

主催 特定非営利活動法人 日本チョウ類保全協会

共催 NPO 法人 自然の会・オオムラサキ

協賛 嵐山町観光協会、三井物産環境基金

後援 嵐山町、嵐山町教育委員会、(財)日本自然保護協会、日本鱗翅学会

全国チョウ類保全シンポジウム

全国チョウ類保全シンポジウムは、2007年1月の岐阜県を皮切りに、全国各地で開催しています。これまではギフチョウ・ヒメギフチョウをテーマに開催してきました。4回目となる今回は、オオムラサキをテーマに里山の自然環境の保全を皆様とともに考えていきたいと思っています。

プログラム

9:30 開場

10:00 開会

(1) オオムラサキの森の30年 10:00～10:40 関根浩史（自然の会オオムラサキ）・大妻嵐山中学校

(2) 基調講演：オオムラサキを保全するには何をすべきか？ 10:40～11:10 小林隆人（山梨県環境科学研究所）

(3) 特別講演 「チョウのたのしみ方」 11:10～12:00
海野和男（昆虫写真家・日本自然科学写真協会会長）

休憩 12:00～13:00

(4) オオムラサキを守る活動 13:00～14:20

講演／北杜市長坂町におけるオオムラサキ保護の歩み（山梨県）

講演／オオムラサキのすむ里山作り（茨城県）

講演／北限地域のオオムラサキ（北海道）

講演／飯能市の里山保全とオオムラサキ（埼玉県）

長谷川誠（北杜市オオムラサキセンター）

中島博美（つくば環境フォーラム）

高橋慎（栗山オオムラサキの会）

大石章（天覧山・多峯主山の自然を守る会）

休憩 14:20～14:40

(5) 基調講演：里山で活動の輪を広げていく 14:40～15:10 及川ひろみ（穴塚の自然と歴史の会）

(6) パネルディスカッション 15:10～16:30 オオムラサキをシンボルとした里山の保全活動

16:30 閉会

特定非営利活動法人（NPO法人）日本チョウ類保全協会

2004年6月に発足し、チョウをシンボルとして、自然環境の保全をすすめています。絶滅の危機にあるチョウ類の調査や保全活動を進めているほか、保全に関する広報・啓発活動なども幅広く行っています。現在会員数は約500名で、チョウの好きな方や自然写真の愛好家、自然保護活動に賛同される方など、全国の方々にご参加いただいています。絶滅が迫ったチョウを1種でも救うために、みなさまのご協力を！ ご入会をお待ちしています！

お申し込み

■参加費：無料

■会場：国立女性教育会館（ヌエック）講堂 〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728 TEL: 0493-62-6711（代表）
最寄駅は、東武東上線「武蔵嵐山」駅。武蔵嵐山駅より、徒歩：約12分、タクシー：約5分、バス：西口ロータリーから路線バス（イーグルバス）を利用し、バス乗車時間約4分、バス停から徒歩約3分。
自動車：関越自動車道練馬I.C.からの場合、東松山I.C.（所要時間約30分）で降り、国道254号線を西に15分、新潟方面からは嵐山小川I.C.で降り、国道254号線を東に15分。詳しくは、<http://www.nwec.jp/jp/about/access.html> をご覧ください。

■申込方法：事前申込みは必要ありません。当日、シンポジウム終了後、懇親会を行います。懇親会への参加を希望される方は、事前に下記問い合わせ先までお申し込みください。

お問い合わせ先

■特定非営利活動法人 日本チョウ類保全協会

140-0014 東京都品川区大井1-36-1-301 TEL 080-5127-1696 FAX 03-3388-7928

E-mail: jbcbs@japan-inter.net <http://japan-inter.net/butterfly-conservation/>



大豆油インクを使用しています

写真提供 加藤良平